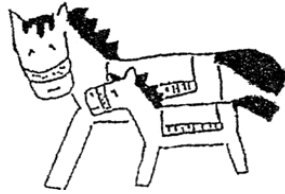


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

27年 1月 NO. 242



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		1月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
1月	9日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「おはなしであそぼ！」をテーマに 絵本や紙芝居・手あそびをします。	
1月	17日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。	
1月	21日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	昔なつかしいお正月あそび（かるた・すごろく 福笑いなど）と干支の折紙をします。	
1月	23日	金	健康育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科医）にゆっくり相談できます。 (要予約)	
1月	31日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も是非子育て体験に おいでください。	
1月	31日	土	あなたもマジシャン！ 14:00～16:00	ロープと使った手品をしますので 初めての方もどうぞおいで下さい。	

<p>・火～土の13時～16時までは、園内開放しています ので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p><b>育児相談（月～土）9:00～18:00</b> しつけや子育てについての悩み、保育園生活 入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
--	--

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター

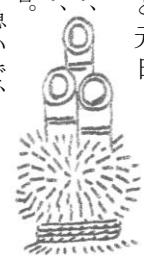


うす墨いろの空の上、  
鳶は大きく輪を描いてた。  
金子みすゞ童話全集⑤  
さみしい王女・上より

兄さまは紋付き、  
母さまもよそゆき、  
わたしもたもの。  
町じゅうに人があそんで、  
町じゅうに松が立ってて、  
あられ  
町じゅうに霰が散ってて。

うす水いろの空の上、  
鳶は静かに輪を描いてた。  
町じゅうに人があそんで、  
町じゅうに日が急いで、  
町じゅうになにか光って。

大晦日と元日



11月8日(土)、当園地域子育て支援センター主催で、映画「うまれる」とやさらぎコンサートをしました。それに参加された現在子育て中の方、また普段子どもと過ごしている保育士からの感想をご紹介します。

## 「うまれる」上映会に参加して

### ペンネーム 元気なつくしっ子(母)

今から数年前、通勤途中の商店街でとびきりの笑顔のご夫婦とかわいい赤ちゃんの写真が目にとまりました。近寄って見てみると「うまれる」という映画のポスターでした。当時の私は仕事一筋の毎日で、写真に魅かれて「この映画、観てみたいな・・・」と思いつつも、観ることなく年月は過ぎていきました。

その後、子どもがほしいと思い始めましたが、なかなか授からず、ようやく一昨年に妊娠・出産。元気な娘を授かりました。

そして今年9月、娘と訪れた子育て支援センターで、見覚えのある写真が目に入りました。手にとって見ると、あの「うまれる」の上映会が開催されるとのこと。今回こそは迷わず観に行くことに決めました。

この映画には4組のご家族の物語が収められていました。ご自身の経験から親になることをためらっていたご夫婦。子どもを望んだものの叶わなかったご夫婦。出産予定日にお腹の中でお子さんが亡くなってしまったご夫婦。どのご夫婦も困難から逃げることなく、今、その時を一生懸命に生きておられ、そのお姿に涙が止まりませんでした。同時に、もし自分が同じ立場に置かれたら、と考えると、改めて娘を授かった奇蹟への感謝の気持ちが湧き上がってくるとともに、育児が思い通りにいかないと夫に八つ当たりしてしまう自分が恥ずかしくなりました。

また、「胎内記憶」についてのインタビューにも感動しました。3歳前後の子どもの約3割は、母親の胎内にいた時の記憶を持っているそうで、あるお子さんは「雲の上からお母さんのことを見ていて、とても淋しそうだったから、お母さんのところに来た。」と話していました。私も娘が3歳になったら聞いてみようと思います。「一緒にいると楽しそうだから、がんばってお父さんとお母さんのところに来たんだよ。」などと話してくれたら嬉しいのですが、憶えていてもいなくてもいいんです。娘を授かっただけで、私たち夫婦は幸せです。

そして、私自身、母を選んで生まれてくることができたこと、愛情いっぱい育ててもらえたことに感謝しながら、祖母から母へ、母から私へと受け継がれた命と愛情の連鎖を、娘やその子どもたちへと引き継いでいけるようになりたいです。

映画を通して、このような気づきのきっかけを与えていただき、心より感謝しています。

開催にご尽力くださった皆さま、本当にありがとうございました。叶うなら、一人でも多くの方に観ていただけるよう、第2回、3回・・・と上映会が実現することをお祈りしています。



## 映画「うまれる」とやすらぎコンサートに参加して

保育士 仲井 寧代

映画「うまれる」は、妊娠・出産から家族といのちをテーマに4組の夫婦の姿を追ったドキュメンタリー映画です。

虐待を受けた過去から親になることに戸惑う夫婦、出産予定日に死産した夫婦、18トリソミーという障害を持つ子を育てる夫婦、長期の不妊治療の末に子どもを授からないことを受け入れた夫婦など、様々な理由から命と向き合う姿がとても印象的でした。

まず、映画の冒頭で「赤ちゃんは雲の上から親を選んで生まれてくる」という子どもの胎内記憶に関する話がありました。3歳前後の子どもが「お母さんが寂しそうだから、僕が助けようと思った」「楽しそうだから、あそこに行こうと思った」など、胎内での記憶を語ることがあるというものでした。そういった子どもの話を聞き、「私を選んで生まれてきてくれたんだ」「こんな親でもいいんだ」と育児に悩む母親の心が救われ、子育てに喜びを見出せるようになるという効果があるのだそうです。例えそれが非科学的でファンタジーなものであっても、それによって心が軽くなり、よりよい母子関係が築いていけるきっかけにもなるという事から、母親には子どもに対する絶対的な愛情の裏側に様々な苦悩や葛藤があるのだということが感じ取れました。

取材を受けている4組の夫婦の中で、特に印象に残ったのは「伴さん夫婦」です。お互い幼少期に両親から十分な愛情を受けることが出来ず、自分自身が父親になること、母親になることに悩み苦しみながら前向きに命と向き合っていました。

また、支え合い成長していく姿や自分が子どもを持つことで変わった両親に対するおもいなど、子どもの誕生を共にうまれた様々な感情や生きることに對する問いこそが「うまれる」という映画のテーマであるのだと感じました。

子どもを持つ母親は当然の事、父親目線での不安や役割、まだ子どものいない若い人たちにも命の尊さや産まれること、生きていくことの意味を映像を通して自分なりに感じる事ができる映画でした。

また、私にとっては保育士として、様々な意味をもたらした生まれてきた子どもたちに何をししてあげられるのか、そしてその母親や父親の悩み、喜びに寄り添い支援することができ

ていたか？そういった問いがうまれた映画でもありました。

1組の夫婦の元に生まれてきた、18トリソミーという1歳までの生存率が10%に満たない障害を持った「虎ちゃん」という男の子は、なんとか無事に1歳のお誕生日を迎えることができ、それだけでも奇跡的だったのですが、今年の12月で6歳を迎えるそうです。チューブで栄養を補給していたのですが、今では固形物が食べられるという話を聞き、改めて子どもの生命力と親の愛情は苦難を乗り越える力を十分に持っているのだと感じました。

是非多くの人に観ていただき、それぞれの立場で、それぞれの問いを見い出して欲しいと思います。

続けて行われた「やすらぎコンサート」では、クラリネットやヘルマンハーブという、普段あまり耳にすることのない楽器と馴染のある歌で癒され、「ちいさい秋みつけた」「川の流れるように」をみんなで歌うと、会場からは「いい歌だね」という声が聞こえてきてきました。いろいろな年齢層の方が来ていましたが、みんなが映画と音楽に癒され、いい時間が共有でき、良かったと思います。



## ご近所の力

堀 侃子

最近、都会の保育所では「子どもの声がうるさい」と地域の方が騒音問題として訴えたと報道されていました。

当園も、街中での登降園時の駐車問題（駐車場がないため、路上駐車）はもとより、普段の子どもの声や楽器演奏、園内放送など音に関しても、ずいぶんご近所にご迷惑をかけています。

地藏盆がある8月、運動会がある10月、創立記念発表会がある12月または1月、の計3回は盆踊りや楽器演奏練習のため、特に音を出すことが多いので、ご近所にご理解、ご協力をいただきようごあいさつに回っています。

そんな時、「子どもの声で元気がでます」「演奏も日々上手になっています」「子どもの歌をなつかしく聞いています」など、ご近所の皆さまの声は、職員や子どもたちの力強い支えになっています。ほんとうにありがたいことです。

香川みすゞ会通信 平成26年12月号より